

## Appendix

### 新型コロナウイルス感染症流行下の看護職における家族看護の困難と技：2025年度進捗報告 補遺

#### コロナ禍における家族看護の教育に関する取りくみ

本報告書は、コロナ禍における、臨床と教育現場での家族看護教育の変化や工夫を明らかにすることを目的として、2025年3月～4月に実施したCOVID-19調査ウェブアンケート（4回目）の結果をまとめたものです。本調査は、日本家族看護学会員を対象に、1381名にアンケート回答の依頼をし、合計463件（34%）の有効回答を得ました。そのうち、以下の問いに対して自由記述のあった165名の回答から、質的記述的分析によって、家族看護の教育（臨地実習や新人教育）の変化と工夫を明らかにしました。

#### 1. 調査の概要

アンケート調査における問い【2025年3-4月回答】

（自由記載）前回のアンケート記載に、面会制限等のために家族と会う機会が減り、家族看護を展開する機会が減ったり、関わり方がわからなくなったりということが見られました。患者の状態を家族が理解する機会も制限され、短い面会時間を大切にしようになったという経験も見られました。このような中で、家族への対応や家族ケア・家族支援の方法といった、家族看護の教育（臨地実習や新人教育）に変化・工夫がありましたらご記載ください。

#### 回答者の内訳

表1. 当該欄の回答者数 (単位：名)

教育研究者	98 (59%)
臨床実践者	57 (35%)
学生	2 (1%)
その他	8 (5%)
合計	165

※その他：看護管理者，看護部内教育担当，行政官，  
看護師長，無職，看護教員，看護専門学校専任教員，在宅支援相談（各1名）

#### 2. 結果の概要

臨地実習と新人教育で、それぞれ様々な変化を感じ、工夫がされていました。中には、特定の課題感に対して工夫が実施されていたものもあります。また、学生や新人教育に限定せず、家族看護教育全般について感じる課題や、すでに実施している、あるいは理想として考えられる工夫も回答されていました。以下に、臨地実習、新人教育、コロナ禍における家族看護教育全般の三本柱で紹介します。

## 3. 結果1—臨地実習における家族看護教育に関する取りくみ

## (1) 工夫

<p>実習施設と学校が双方向に働きかける</p> <p><b>課題感</b> 学生が家族と会える機会が減った</p>	<p>学校が、臨床スタッフに家族支援の見学や情報共有の協力を仰ぐ (例：助産学)</p> <p>学校が、家族に会う機会を実習施設に調整してもらう (例：在宅看護学)</p> <p>実習施設が、在宅の場面を見せるために患者宅と学校をオンラインでつなぐ (例：在宅看護学)</p> <p>実習施設が、家族に安心して学生を受け入れてもらうために、学校にも働きかけをする</p> <p>実習の引率を通じて見聞きした家族支援方法を、教員が学校と実習先に紹介する</p>
<p>教員や実習指導者が率先してやって見せる</p> <p><b>課題感</b> 患者と家族の関係性を読み取る機会が減った</p>	<p>教員や実習指導者が、率先して家族に会って、学生に情報やとらえたことを伝達する</p>
<p>実習中にできるかぎり家族看護を学べるように指導する</p> <p><b>課題感</b> 学生が家族と会える機会が減った 患者と家族の関係性を読み取る機会が減った 限られた面会時間に病室訪問することに葛藤する学生が出てきた</p>	<p>看護記録から丁寧に情報を吸い上げる練習をさせる</p> <p>家族看護について意識的に考えることを促す</p> <p>家族支援について考える機会を設ける (例：基礎看護学，小児看護学)</p> <p>限られた面会時間に家族に聞くことを事前によく考えさせる (例：在宅看護学，小児看護学)</p> <p>家族に会える在宅看護実習の機会を生かす (例：在宅看護学)</p>
<p>家族看護の重要性を伝えられるように講義する</p> <p><b>課題感</b> 学生が家族と会える機会が減った 実習先で家族に関する情報が不足した 病院での家族支援の機会が減った 子どもが家族に会えない面会制限に対する倫理的課題を深く考えるようになった</p>	<p>重点的に講義する (例：在宅看護学，小児看護学)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもにとって家族とは何か</li> <li>・家族に寄り添うこと</li> <li>・ダブルケアラーの大変さ</li> <li>・患者と家族の懸け橋になること</li> <li>・面会制限による影響</li> </ul>

	<p>事例を取り入れる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ以前の事例も活用する</li> <li>・コロナ患者の事例を取り入れる</li> </ul>
	テレナーシングやオンライン面会の実際を講義する
	家族の考え方や多様性に配慮して講義をする (例：地域看護学)
	視聴覚教材を活用する (例：小児看護学)
	模擬患者や技術指導に家族や声掛けを含めた教育計画を作る
	学生に自分の体験に基づいて家族支援について考えさせる
	学生の思考を促すようにディスカッションの機会を設ける (例：精神看護学)
<p>他の教員と一緒に取り組む</p> <p><b>課題感</b> オンライン授業への適応に労力を費やしてそれ以上の工夫はできなかった 家族看護に関する教授内容が不足していた</p>	<p>他の教員を巻き込んで教授する (例：基礎看護学)</p>

(2) 背景にある状況の変化

課題感

実習に関連	学生が家族と会える機会が減った (例：助産学，基礎看護学，精神看護学，小児看護学，成人・老年看護学)
	患者と家族の関係性を読み取る機会が減った
	実習先で家族に関する情報が不足した (例：在宅看護学)
	病院での家族支援の機会が減った
	限られた面会時間に病室訪問することに葛藤する学生が出てきた (例：小児看護学)
	子どもが家族に会えない面会制限に対する倫理的課題を深く考えるようになった (例：小児看護学)
	実習の制限が厳しくなった
講義に関連	オンライン授業への適応に労力を費やしてそれ以上の工夫はできなかった
	家族看護に関する教授内容が不足していた (例：基礎看護学)
	学生の家族観を知っておくことが必要に感じるようになった

前向きな変化

実習に関連	コロナ禍に比べて改善された
	面会の意味を学生に考えてもらえるようにしたいと考えるようになった

講義に関連	コロナ禍を教訓に隔離の影響について学生が理解しやすくなった
	家族看護を看護学校で教えたいという依頼が増えた

#### 4. 結果2—新人教育における家族看護教育に関する取りくみ

##### (1) 工夫

一緒に実践してみる	家族への対応を一緒に行う
<b>課題感</b> 実習での経験値が低いスタッフが増えた 家族への関心が希薄になった スタッフが家族への対応に困って相談してくる	先輩スタッフの家族支援を見学させる
	家族支援の振り返りをする
	若いスタッフによる対応の補足をする
	病棟全体で家族支援を意識づける
大切さを伝える	面会に来た家族の気持ちを推察しながら情報提供をすること
	限られた条件下で検討する大切さ
	会えない家族にも目を向けること
	医療者は患者と家族の橋渡しをする役割であること
	家族の情報を意識して収集すること
	患者と医療者にとっての家族面会の大切さ
	家族の全体像をとらえた支援の大切さ
	会えない家族にも目を向ける重要性
具体的に指導する	基本的な家族との関わり方
<b>課題感</b> 家族との関わりにおける経験が不足している	電話でのコミュニケーション方法
	見通しをもった家族への質問方法
	会えない家族への対応方法
教育手法を工夫する	勉強会
<b>課題感</b> 家族との関わりにおける経験が不足している	e-learning
	シミュレーション教育
	院内研修
	ロールプレイ
	動画

##### (2) 背景にある状況の変化

###### 課題感

実習での経験値が低いスタッフが増えた
家族への関心が希薄になった
家族との関わりにおける経験が不足している
家族看護教育が進んでいない

前向きな変化

家族との関わりを重要視するようになった

5. 結果3—コロナ禍における家族看護教育全般に関する取りくみ

(1) 背景にある状況の変化

家族看護に関する前向きな気づき	会えない家族への関わりについて考えるようになった
	家族看護のプロトコルを現場で使用しやすくなった
	訪問看護の方法が変化して深まった (例：在宅看護学)
家族看護の質における危機感	家族看護の質が低下した
複雑な家族への看護と教育に関する困難	虐待の子どもと接する機会が増え、その家族に関する看護教育が難しい (例：小児看護学)
面会制限による悪影響	面会制限により、施設入所中の高齢者の認知症が進行している (例：老年看護学)
	面会制限により、スタッフへの刺激がなくなる (例：精神看護学)
	付き添い交代の問題で、患児の親が疲弊している (例：小児看護学)
	家族の面会制限による誤った対応を体験する
面会制限に関する取り組み	荷物受け取りの機会や電話連絡が増えた
	コロナ後もリモート面会を活用するようになった
	面会時や電話で状況説明をする機会が増えた

(2) 感じている課題や考え

コロナによる家族看護実践と教育への対応に必要性を感じない	従来の教育内容で十分対応できている
対面での教育を再評価する	対面での教育を再評価する
家族看護の重要性を再認識する	家族看護の重要性を再認識する
家族面会の重要性を再認識してさらに工夫する	家族面会の重要性を再認識してさらに工夫する
工夫をしても限界を感じる	工夫をしても限界を感じる (例：助産学)
コロナ禍を通して新たな教育の視点を 得る	感染対策と倫理のバランスに関する教育が必要である
	人生における大切なことを考える教育が必要である

## (3) 実践している家族看護の工夫

オンラインツールも活用して面会機会を作り出す	面会時間を拡大する（例：小児看護学（NICU））
	オンラインツールを活用する
	ドア越し面会を実施する
	ICTを活用する
	代替手段を活用する
積極的に家族に患者の様子を伝える	面会やLINEで分かりやすく伝える
	短時間でも効率的な面会時間を作る
部署を超えて連携する	研修会を開催して医療機関と地域の連携を強化する
	COVID-19専門病棟での家族看護の相談に応じる
家族のニーズを把握する	家族のニーズを把握して支援する
	ジェノグラムを作る

## (4) 理想的な工夫

家族看護の教育内容を充実させる	家族からの情報収集方法に関して教育する
	家族との信頼関係の作り方を教育する
	工夫して対応できる応答力を養う
	サポートを受けながら家族支援ケースを受け持てるようにする
面会以外にもICTを用いた工夫を発展させる	メールで患者と家族の代弁者としての役割を担う
	オンライン指導や動画を取り入れる
	面会以外でのICTを用いて工夫する